

第一集 第二編

體育增刊
會議書

務印書館發行

遠國委員會運動會定稿

體育叢書

增補

足

球

第一集 第二編

國民體育社編輯
美國麥克樂訂正

行發館書印務商

Physical Education Series
FOOTBALL

By
THE PEOPLE'S ATHLETIC SOCIETY
Edited by
PROFESSOR McCALL

1st ed., Dec. 1916 5th ed., Oct., 1927

Price: \$0.40, postage extra

THE COMMERCIAL PRESS, LIMITED
SHANGHAI, CHINA
ALL RIGHTS RESERVED

分 總 印 發 訂 編
售 發 刷 行 正 輯
處 發 行 所 者 者

補增
(足)

(每冊定價大洋肆角
(外埠酌加運費匯費)

球 一 冊

中華民國十五年十二月初版
(體育叢書第一集第二編)

貴福長商蘭濟北
陽州沙谿南京
廣常務安太天
州德慶原津
張潮衡印蕪保
家州印湖封定
口香成書南西奉
港都書昌安天
梧重分九南吉
州慶江京林
新嘉雲廈漢杭龍
坡南門館口州江
館市館路館樂社

體

育

叢

書

例言

一本書係從英國體育叢書中譯出曾請精於體育者就本國情形酌量取去更承上海青年會美國麥克樂先生慨允校訂而成

二從來足球書籍僅有規則向無理論本書上編羅列各項理論均係詳密精湛都凡八章讀者若細心而體會之自不難於入門

三凡關於練習足球之各種方法及足球所應當禁止之事項莫不條分縷晰不厭求詳至再至三世之熱心運動者若能

潛心研究則功效自著獲益必多

四本書說理淺顯足供中等以上各學校課餘運動之用而於體育

各地公共體育場中尤爲必需

五本書附圖多至三十餘幅皆自原書中精選所得姿勢正矯

方法完備

六本書所列之規則即青年會最新訂定者得麥克樂先生之應許印爲下編俾成全璧特誌數語藉表 高誼

足球目次

上編 理論

總論

第一章 守球門法

- (一) 守門員之身材 (二) 守門員之體格 (三) 守門員性情必須涵養 (四) 守門員須具有審察能力 (五) 守門員須具有勇敢力 (六) 守門員須迅疾靈敏 (七) 守門員用腳與手之利弊 (八) 守門員用拳擊球法 (九) 守門員須與後衛連絡 (十) 守門員須注意罰球

第二章 作後衛法

- (一) 後衛 (二) 作後衛者之資格 (三) 奪球法 (四) 後衛當具審察

能力 (五) 後衛之踢球法 (六) 須練習準的 (七) 後衛動作須練習
迅速 (八) 後衛須知頂球法 (九) 後衛當臨事謹慎 (十) 後衛須與
他球員互相接應 (十一) 後衛之衝敵

第二章 作中堅法

(一) 中堅 (二) 中堅之地位 (三) 中堅之進攻與退守 (四) 中堅之
資格 (五) 中堅須善奪球 (六) 中堅須具有審察力 (七) 賽球時莫
存私意 (八) 中堅須與左右衛及其餘之同隊球員互相連結 (九) 頂
球法

第四章 作前衛法

(一) 足球重在模倣 (二) 進攻 (三) 門陣法 (四) 前衛須注重

體育叢書

踢球法 (五) 毋存私意 (六) 舉動須迅速 (七) 奪球注意 (八) 乘機之遠攻法 (九) 練習頂球法

第五章 作中鋒法

(一) 中鋒 (二) 中鋒之資格 (三) 盤球之練習法 (四) 授球法 (一)
五) 汰除私見 (六) 遠射法 (七) 中鋒須預知左右前鋒之性情與能
力 (八) 頂球之效用 (九) 中鋒不可離所據地點太遠

第六章 作中右鋒法

(一) 中右鋒之資格 (二) 中右鋒之踢球法 (三) 鎮定 (四) 中右鋒
須與同隊球員互相連絡 (五) 盤球之特長

第七章 作左右外鋒法

足 球 目 次

四

(一) 學貴有恆 (二) 迅速 (三) 習練迅速法 (四) 左右外鋒須知盤球法 (五) 鎮靜忍耐 (六) 隨機應變 (七) 互相克制 (八) 左右外鋒宜利用遠射法

第八章 對於初學足球者之忠告

(一) 毋正當職業之害 (二) 毋徒貪得勝之虛榮 (三) 毋好飲酒
(四) 毋受劣友之引誘 (五) 習勞 (六) 須參考他人之足球法 (七)
毋求速成 (八) 涵養性情 (九) 衣服須合宜

第九章 足球隊養成法

結論

下編 規則

體育叢書

第一例

(一) 球員之人數 (二) 球場之布置法 (三) 球門之設立法 (四)
球門之區域 (五) 犯罰十二碼之區域 (六) 罰十二碼之地點 (七)
球之重量及大小 (八) 萬國比賽足球會所用之球場及球

第二例

(一) 比賽之時間 (二) 選擇球門及先發球之訂定法 (三) 開始發球
(一) 互換球場 (二) 在中心點發球

第三例

(一) 互換球場 (二) 在中心點發球

第四例

(一) 何謂勝一球 (二) 遇球門上橫木損壞之時 (三) 凡遇以下情形

體 育 叢 書

球員應繼續進攻 (四) 凡遇以下情形球員不得繼續進攻

第五例 擲球

第六例 球員竊近敵人之方面

第七例 在球門區域內發球

第八例

(一) 守門員可用手 (二) 守門員之被衝撞 (三) 守門員之更易

第九例

(一) 遇猛烈之競爭 (二) 球員不得由後面撞人

第十例 罰任意球

第十一例 因罰任意球而勝一球者

體 育 叢 書

第十二例 球鞋及護腿

第十三例 裁判員之責任及權限

第十四例 巡邊員之責任及權力

第十五例 比賽時與裁判員之命令

第十六例 遇事故停止後如何開始踢球

第十七例

(一) 罰任意球 (二) 在罰十二碼之地點罰球

足球

上編 理論

總論

今夫教師之資格。豈必待有極高深之學問。而後許其執教鞭爲人師哉。凡有一藝之長。一技之精。要無不可出爲人師。此亦事理上所許可者。余述此編。非好爲人師。不過欲表明此區區者。亦大有研究之價值在焉。苟人人能知此理。得插足於東西各國賽球場上。以相競勝負。亦未始非吾人之樂事故。余願世

甚矣。

第一章 守球門法

(一) 守門員之身材

守門員之身材。與比賽之得失。極有關係。故選擇不厭求
門員不得過矮。若其身長在五尺二寸以下者。可決其無
之資格。蓋因球門高大。非身長手敏者不爲功也。惟英國
令生確係侏儒。而能精於是技。實爲世所難得。不能爲例。
員又不得過高。過高則應接不便。俯仰週折。倘遇矮小敵

體

叢

書

攻。未有不失敗者。故守門員之身材。若非在五尺九寸以上及五尺十一寸間者。(皆英尺)皆非合格。彼洛士與魯濱遜之能出人頭地者。蓋以此耳。至於手臂之長。須與身材之長相稱。則禦敵自然靈敏。守門員更不可太胖。太胖則轉側呆滯。舉動皆拙。最易誤事。然若英國福爾克者。斯亦萬中得一。可遇不可求者也。總之球員中之不合守球門者。可使任其他職守。

(二) 守門員之體格

守門員之體格須康強活潑。然不必具有大力。若遇心不快愉。身有不適之球員。不可使其爲守門員。蓋此種職務。視之若易。

行之實難。雖不必衝突用力。而常直立於卑濕之地。最易致病。在體格強壯者。尙可無害。勉強行之。無益也。

(三) 守門員性情必須涵養

守門員。在球隊中爲重要人物。於比賽時則爲最後保障。其關係之重可知。是以守門得人。前敵雖偶有失悞。陷於危險。守門員若能鎮定不驚。自不難挽回於萬一。倘守門員鹵莽慌張。則萬無挽救之餘地矣。故守門員之性格。必須涵養有素。鎮靜爲先。敵來不慌。敵去不忽。動作以時。斯爲上上。

(四) 守門員須具有審察能力

體

育

叢

書

守門員既具以上之資格。尤須備有審察能力。守門時。敵來則
鎮定以拒。敵去

更須偵察敵人

第

之強點弱點。觀

一

測天氣風勢之

順逆。地勢之傾圖

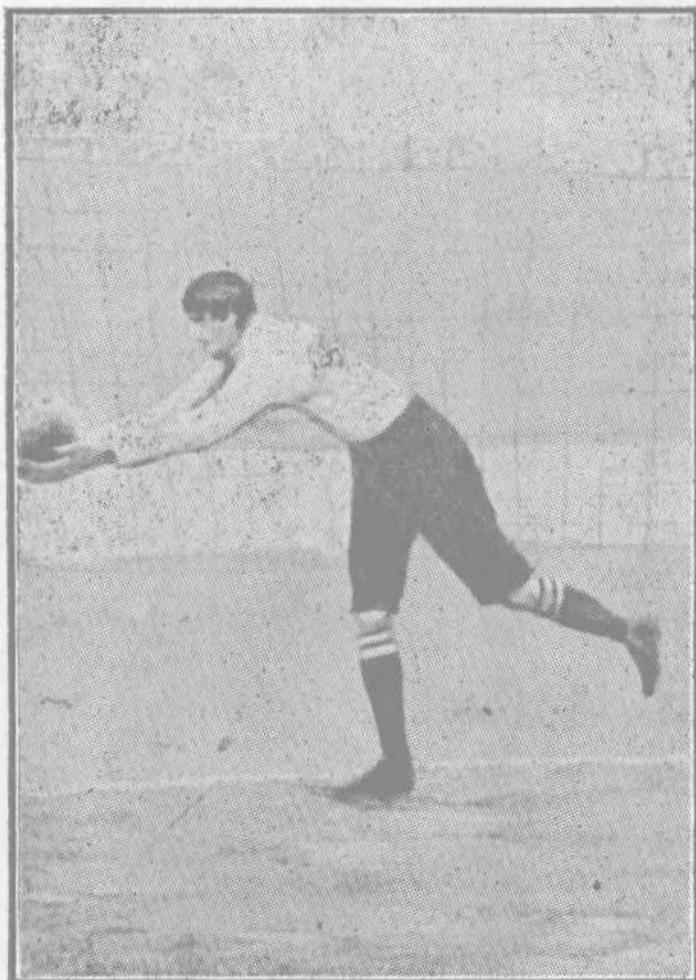
斜高低。爲預備

注意之點。定破敵制勝之道。

(五) 守門員須具有勇敢力

足 球

五



守門員接球之狀態